

行くぞっ
りゅうぎ
龍儀っ！

来いっ

豪将っ！
うしやうじやう

戀愛小説

偽書戦國演義一幕

画工・市川和秀



争乱の頃

水嶺城主・龍儀は
孝武関を
攻めること数日

孝武関城主・
豪将は
敗戦し、開城を
余儀なくされる

幼なじみの
龍儀殿と豪将様が
闘われるなど
惨いことよ

果たして
どうなることやら

水嶺に破れた
孝武関の行く末を
おふたりは何日も
話し合っておられる

何っ!?

この度の戦果として
お前の妻・麗蘭を
もらい受ける

豪将

※青梅竹馬…幼なじみのこと

きつ、貴様っ
幼なじみ
とは言え
恥知らずな
ことをっ

確かに俺達は
青梅竹馬の仲だが
俺は敵将だ
何のためにこの
孝武関を手
入れたと思う

何っ!?

龍儀っ
貴様本当に
そんな
つもりで

この孝武関を
襲ったと
言うのか!?

ああ

ずっと
手に入れ
たかったのだ

愛しい
愛しい
俺の……麗蘭

お前の妻
麗蘭

!!



罰として

俺以外の漢のおとこ
妻になった
麗蘭に

龍儀っ

おおそうだ
俺の軍の
兵士達にも
麗蘭を
抱かせてやろう



龍儀っ

俺の妻に
そんな惨い
ことをするのは
やめてくれっ

俺に出来る
ことなら
何でもするっ

後生だっ
この通り
頭を下げるっ

……
何でもすると
言ったな？
豪将



だったら
お前が俺を
愉^{たの}しませて
みせろ

な……に!?

お前が……
麗蘭の代わりに
なると言うのなら
考えてやってもいい

どうだ
俺の陽物^{モノ}が
啜^{くは}えられるか?

りゅ
龍儀^{りゅうぎ}っ

この孝武関の
ためにも
お前の愛しい妻の
ためにも
……
啜^{くは}えてみせろ

ぐ……

む、むふっ

む、むふっ

む、むふっ

もっと奥まで
しっかりと
咥えろ
豪将

げほっ

この程度で
俺を満足させて
いるつもりか？





本当に
麗蘭には手を
出さないん
だなっ

りゅ、龍儀っ
ほ、本当にっ



無論
——
全てはお前が俺を
どれだけ飲ようこばせるかに
よるぞ



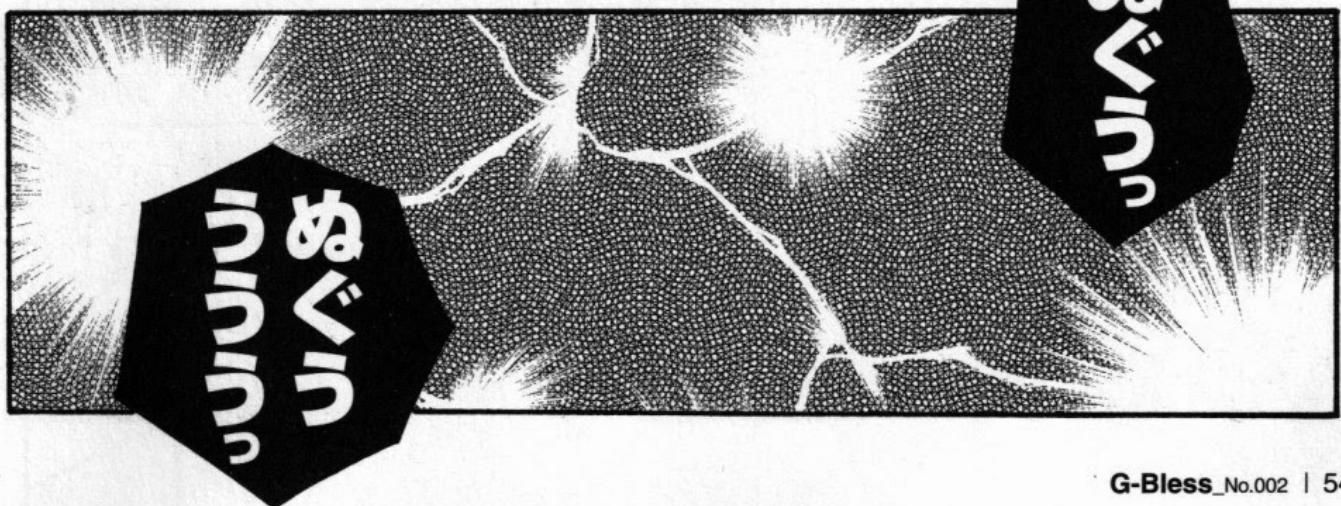
うげっ

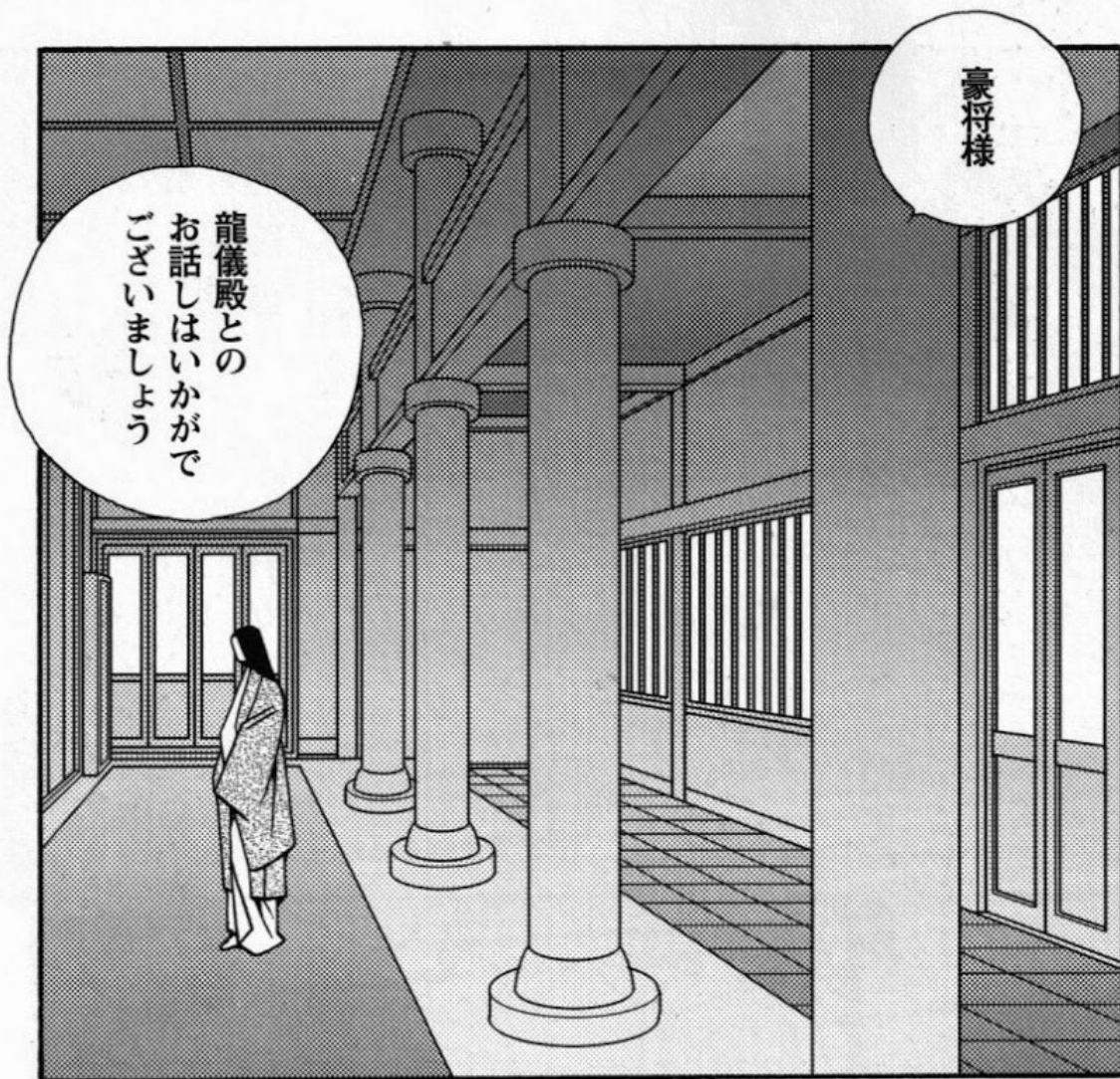
うげっ

うげっ

うげっ

「虎髯公」こしめこうとも
あだな
綽名される猛将が
いいさまだな





豪将様

龍儀殿との
お話しはいかがで
ございましたよう

れ、麗蘭か!?



はい
豪将様



れ、麗蘭っ!

お、俺の寢所しんじょに
入っては
ならぬっ!

私がお伺いして
宜しいでしょうか?

おふたりの
お話し合いで
ここ数日お姿を
見せないの
で臣下達が心配して
おります



ご、豪将様!?

龍儀っ!?

そ、そんなトコっ
あ、あ、あ、あ、あ、あ

ひ、ひ、ひっ

あまり
声を出すと



お前の妻に
気つかれるぞ
いいのか?

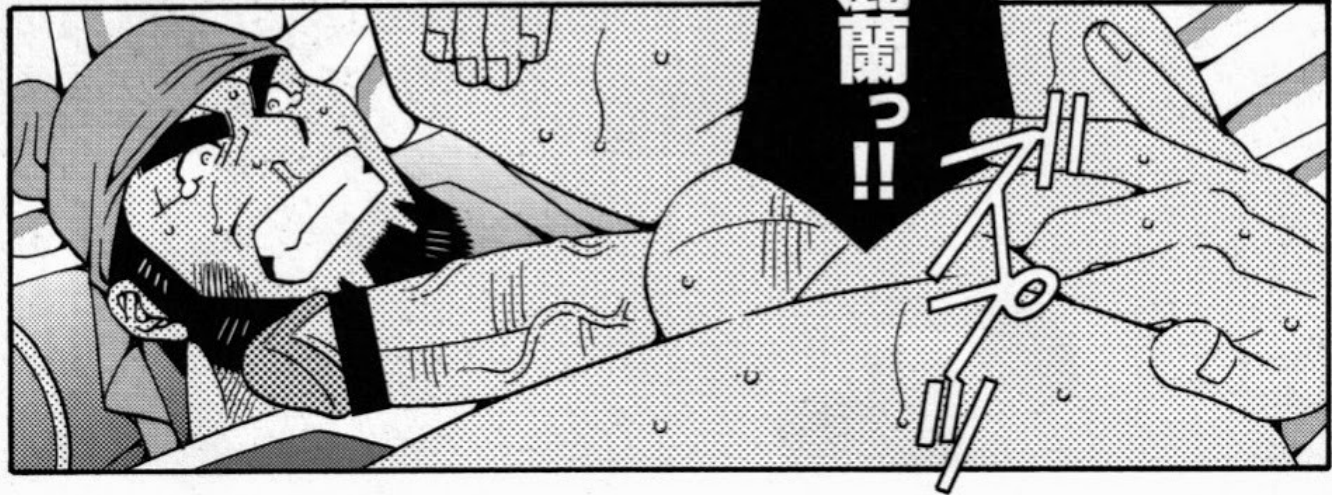


い、イヤだっ
それだけはっ
やめてくれっ



豪将様!?

麗蘭っ!!





……豪将様



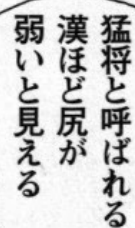
す、全ては
この孝武関の
ためっ

お前の
ためだっ



んがあぁっ





ここを
ヤラれると
昇天する

あつ

だ、駄目だっ
そ、そんなんっ
気があがって
くる……っ

れ、麗蘭つ
許せつ

וְיִשְׂרָאֵל וְיִשְׂרָאֵל וְיִשְׂרָאֵל

何故だ
……
龍儀

今は護る國が
違うが

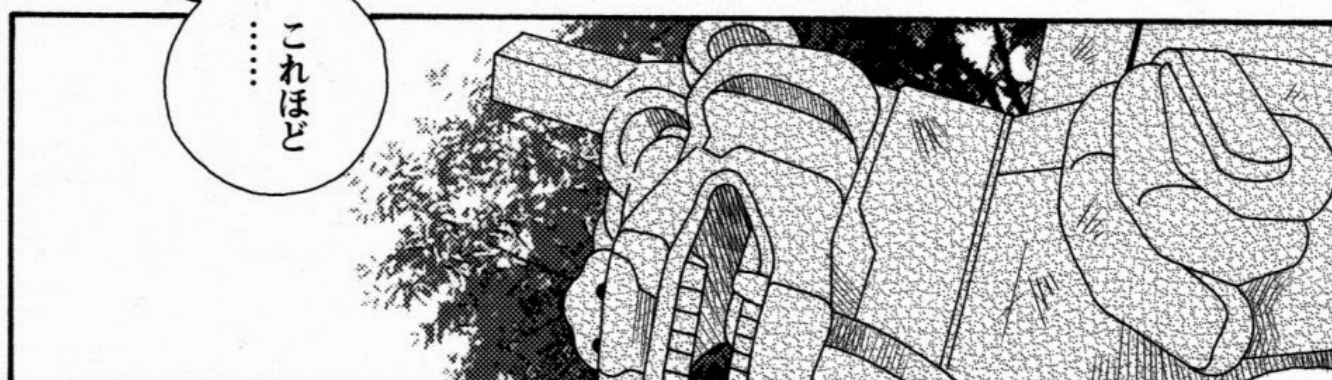
かつては
同じ師の元で
武の道を
求めたはず



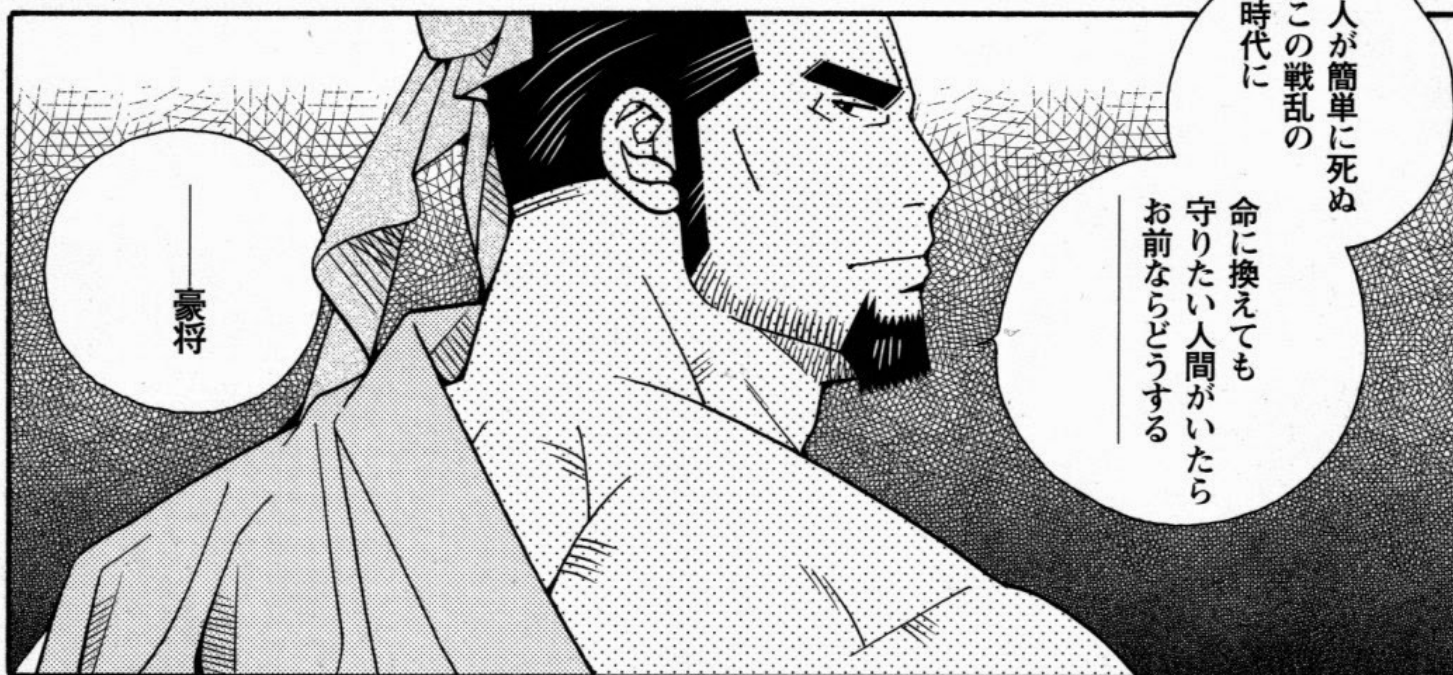


お前……

俺が麗蘭を
妻にしたことを
これほどまでに
憎んでいたのか!?



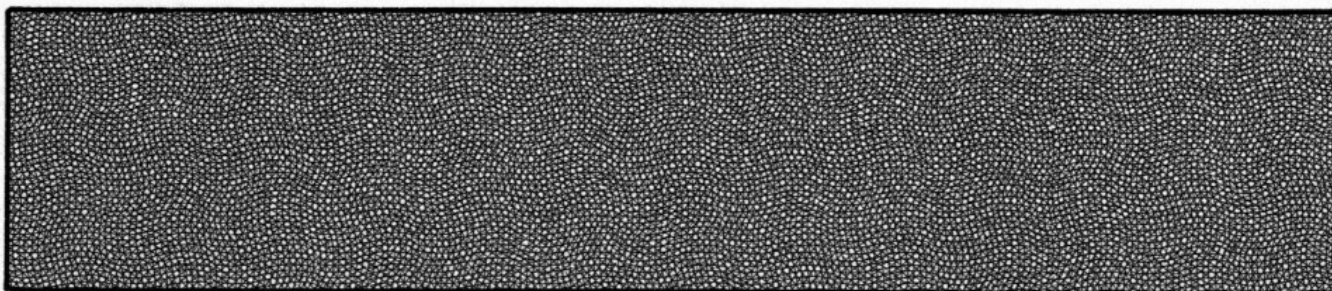
……
これほど



人が簡単に死ぬ
この戦乱の
時代に

命に換えても
守りたい人間がいたら
お前ならどうする

——
豪将



この孝武関を
我が水嶺軍が占領して
十日が過ぎた

今後この土地を
どのようにするか

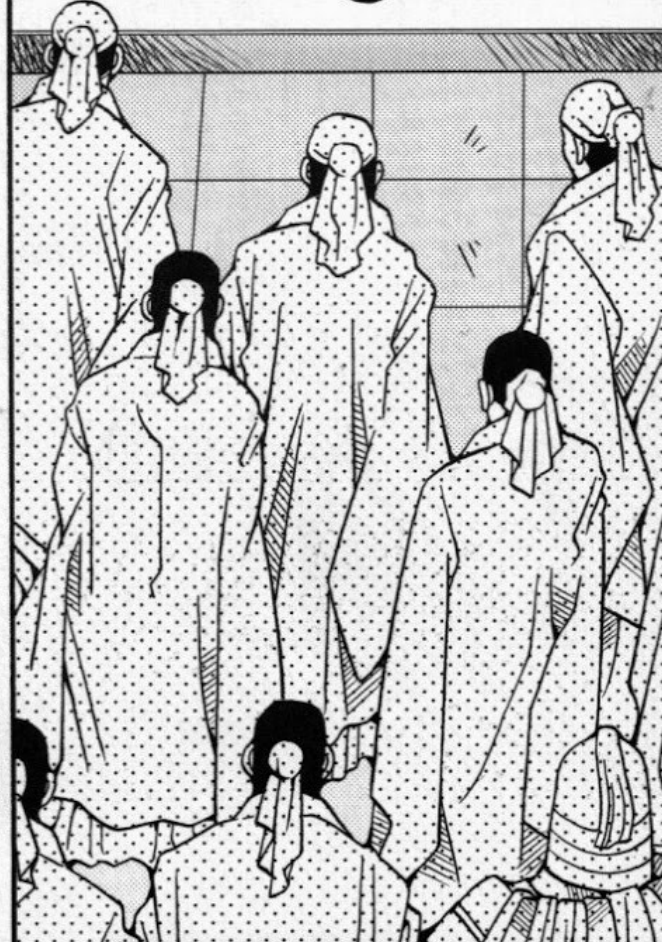
豪将と俺が
話し合った結論を
お前達臣下に
伝える

龍儀殿
我々にお話が
あるとの
ことですが

しかして
我々が君主は
いずこに？

……
案ずるな

お前達の
君主はここに
いる



孝武関の
者達に告げる

孝武関の人間達は
抵抗することなく
俺に従え！

何故なら
お前達の君主は
今日から
俺の「花嫁」に
なるのだからな！

あ

あ…あ

龍儀っ
貴様あっ

どういう
つもりだ
あああっ!?

しかもこの
浅ましい花嫁は
婚儀を皆に
見て欲しいそうだ

龍儀殿っ

正気の沙汰
ではないっ!
貴公は
乱心したかっ!?

黙れっ

お前らや
豪将が
抵抗すれば

俺はこの孝武関を
焼き払い
お前達臣下全員を
処刑する



どうだ？

い、嫌だっ

美しい益荒男ぶりの
猛将が他の漢に
抱かれる気分は

やめろっ!!

み、皆が
見るっ

俺達の
夫婦和合を
皆に見てもらおうの
だろう？

助けて
くれっ

誰かっ

もっと
深くまで
入るぞ

イヤだあ
ああああ
あああ



ああっ

だっ 誰かっ
助けてくれっ

誰かっ!!

ご、豪将様
ど、どうかっ

どうかっ
孝武関の
民のために
我慢なさって
くださいっ

あああ
あああ
あああ

そ、そんなっ

ははははっ
ちゅうしん
大した忠臣だな!!

どうだ
俺を感じるか？
家臣達も
俺達の婚儀を
認めたぞ

やめろっ!!

めっ、抜けっ
龍儀っ!

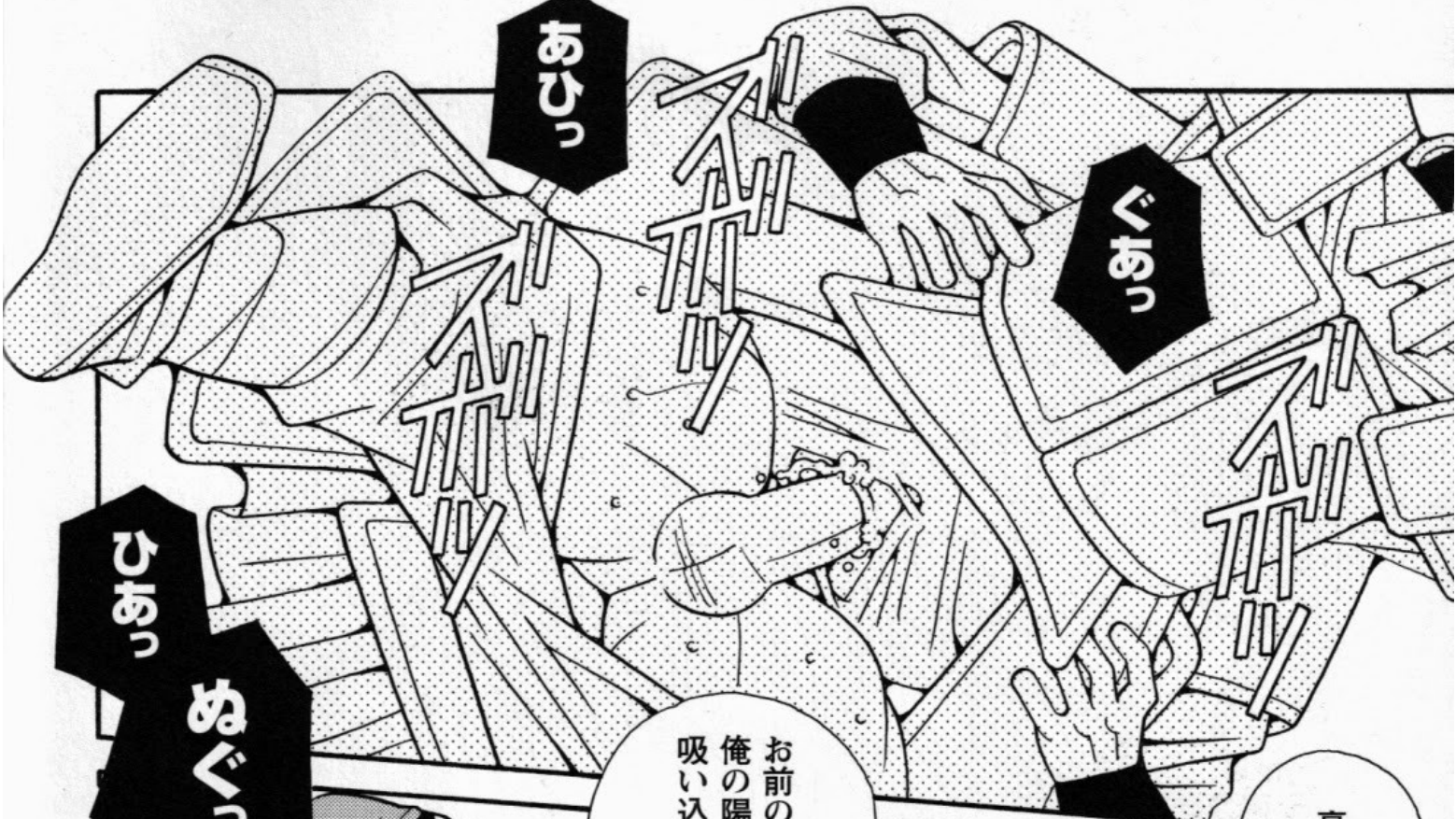
お、俺は
民と妻を
ま、守るため
……っ

守るためだっ
守るために
……っ

豪将

お前が
弱いところは
ここだ

んああっ



お前の尻は
俺の陽物を
吸い込んでるぞ

豪将

ひあっ
ぬぐっ

余程俺が
欲しいみたいだな

んぬはあ
あああっ





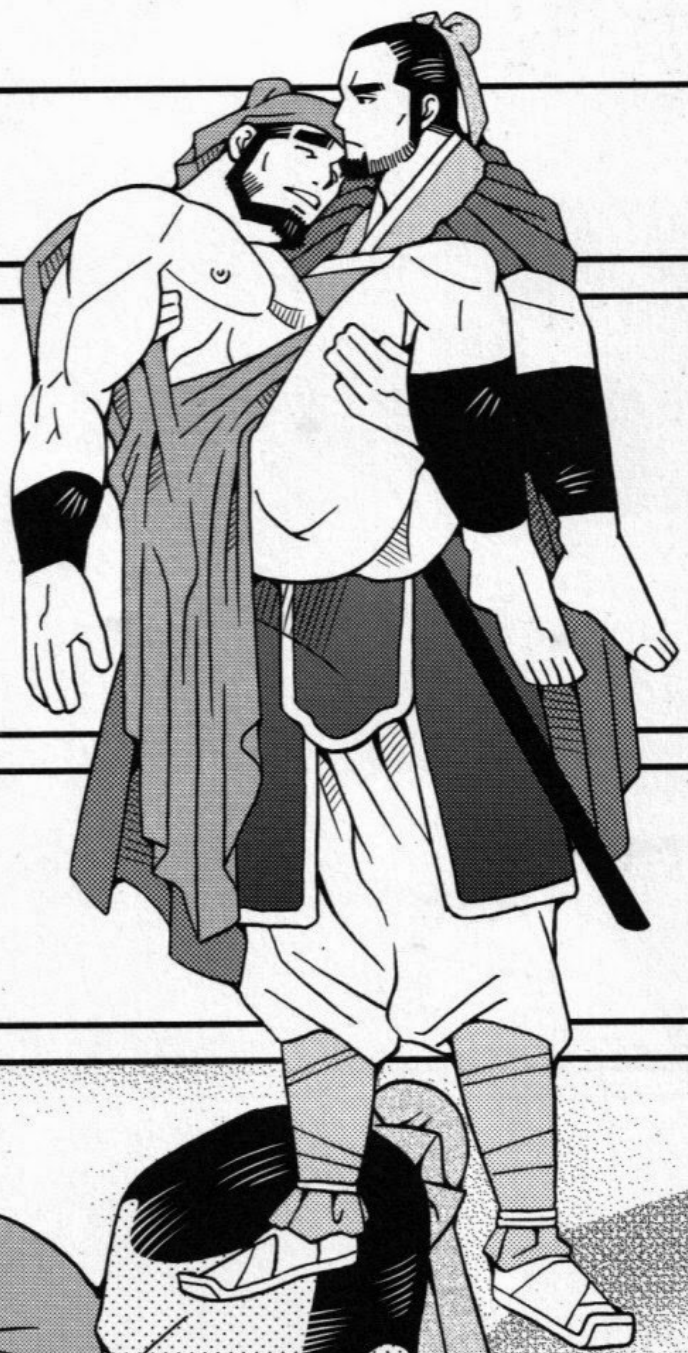
豪将
そろそろ
お前の中に
子種を仕込むぞ

やめろっ
やめろっ
やめろっ

俺の子を
しっかり
身ごもれよ！

やめろっ！！





後曰……
花嫁として
豪将は俺の手で
蟄居させる

俺は
絶対にお前を
戦場で
死なせはしないと
誓ったのだ

……
許してくれ
豪将



すまない

武将のお前を
戦場に行かせない
ために
俺には
こんな方法しか
……

憐歎敢喚名
念歎不呼字
連喚歎復歎
両誓不相棄
遠い昔
俺は一生
命に換えても
お前だけを守ると
誓っていたのだ

